

SAS 早めの治療が大切

OCHIS 健康管理と事故防止セミナー

ヘルスケアネットワーク(ochis)の作本貞子副理事長は11月28日、三井住友海上大阪淀屋橋ビルで開催された「運輸業界の健康管理と事故防止セミナー」で講演した。

セミナーのテーマは「睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の必要性と効果的な活用方法」。企業がしてSAS対策が必要な理由として、健康管理が事故防止に直結すると強調した。また、SASを起因とした居眠り運転は重大事故に直結すると、近年の事故例をもとに紹介。「SASスクリーニング検査を受けていないでは済まされない状況にある」と話した。

作本副理事長は、SASの大きな特徴は「自覚症状では分からない」という点をグラフで解説し、自覚症状がないのに重症者が多いことを挙げた。さらに、重症のSAS患者は9年後には10人のうち4人が心臓病・脳卒中などで死亡するといふ驚くべきデータも紹介した。

社内の健康起因事故対策として、来年4月開始予定の「運輸ヘルスケアナビシステム」の活用などを挙げた作本副理事長は、「SASが見つかった場合、会社で対応できないと対策を

講じない事業者が多かったが、治療を継続すれば乗務も可能になるため、早めの対策を実施していただきたい」と締めくくった。

(木村麻理奈)



作本副理事長

本副理事長は、「SASが見つかった場合、会社で対応できないと対策を